

頑張る

農業法人

「個人でなく会社にする」と経営はつづせない。後継者も会社に入り後を継げる」と、酪農経営で法人化への意義を語る京丹波町下山区の農業法人「株式会社ミルクファームすぎやま」代表の杉山明さん(62)。父親の後を継いで、フリースタイル方式で経営を拡大、一層の省力化のため自動搾乳システムを導入するなど、家族ぐるみで先進的な経営を実践する。息子が頼もしい後継者として共同経営に加わり、娘がチーズを製造・販売する6次産業化にも取り組む。

を農地開拓して水稻を中心にスイカや野菜類の栽培に取り組んだ。同時に乳牛1頭から酪農経営を開始し、17年後には7頭に増やした。

明さんは高校生時代から手作業での搾乳などを手伝っていたが、生き物相手の酪農が好きになり、卒業後、酪農主産地の北海道の牧場で3年間の研修を積んだ。21歳の時にUターンし、「杉山牧場」として酪農を後継。徐々に頭数を増やしていった。

自由に牛舎を歩き回れるフリースタイル方式を1991年に導入、2005年には、府内では珍しい自動搾乳ロボットを導入することで、着実に経営拡大を進めた。

同地区は以前、原野が広がっていたが、終戦後開拓地となった。1950年に明さんの父親が京都市内から入植し、2診

その中で、会社勤め

(株)ミルクファームすぎやま 京丹波町



経営基盤を強固に

設置したチーズ製造工房で経営に頑張る杉山明さん(右)裕亮さん(中)と裕亮さんの子を抱く牧さん

だった長男の裕亮さん(34)が08年に本格就農。さらに、10年間北海道で乳製品加工の経験を積んだ長女の牧さんが昨年3月に経営に加わった。

明さんの勧めもあり半年後に工房を設置し、その日に搾乳した生乳を

使って、新鮮な味わいの「モツァレラチーズ」の製造を開始。京都市内のレストランや、J A京都の農畜産物直売所「たわわ朝霧」で販売する。

頼もしい後継者が生まれる中で、家計と経営を分離して経営基盤をより

強固にするため、昨年12月20日に法人化した。代表取締役社長の明さんの他、取締役は妻の啓子さん(60)と裕亮さん。牧さんら家族2人は従業員として働く。

現在5診の敷地に牛

太陽光利用で環境にも配慮

今年環境に優しい酪農経営の実践のため再生可能エネルギーとして牛舎の屋根に太陽光発電装置を設置するなど新たな取り組みも始めた。

明さんは「地域にはもともと酪農家が11戸あったが、高齢化や後継者不在で今は4戸に減少した。法人化することで後継者に経営承継しやすいつ体制をつくった。息子や娘には、新たな若者らしい視点で今後の経営を担ってほしい」と将来を期待する。

△法人所在地 京丹波町下山中野51の2。電話 0771(83)0282。